

移住サポートセンターより

函館に移住された方を紹介します。

「湯川から盛り上げる」 Tune Hakodate バルマネージャーの挑戦

私が働くTune Hakodateのコンセプトは、「音でつながる、旅をいづる」。「1階はライブステージを設け、世界中の旅行者、地元の方が音楽とお酒を通して繋がれる空間作りを目指しています。そして2、3階はゲストハウスで82床、4階はシェアハウスで10部屋あります。ライブイベントやワークショップなどを開催し、地元で愛される場を目指してスタッフ一同奮闘しています。

札幌から函館に来たのは2018年2月11日、札幌は平年ほどの積雪もなく、とても天気の良い日でした。車で約6時間かけて函館に着くと雪が多く、何より風が強く、来てしまったという事実と寒さに震えあがりました。それから数週間は猛吹雪の毎日でした。函館は雪が少なくないと聞いていたのに…。二度とここで冬を越したくないと思ってしまう。

この度、湯川に新しくオープンしたTune Hakodate Hostel

er & Music Barのバルマネージャーを任せられ移住することになったわけですが、当初函館のゲストハウスでバルマネージャーをやらないかというお話をいただいた時、ずっと私の気持ちに拍車をかけていたのは、函館という場所でした。函館の印象というのは、朝市、山、五稜郭、遠い、といった程度で、札幌から旅行で何度か来たことがあり、函館楽しい！イカ美味しい！なんて思っていました。ここに住むなんて考えたことはなかったです。それでも人口26万人都市、札幌とは違うけれど、人も遊ぶ場所もたくさんあるだろうと思っていました。

3月オープンに向け準備に追われる日々、外は毎日猛吹雪で、遊びは近隣の飲食店に行く程度でしたが、そこで出会った方々は暖かい人たちがかりで、若い人が湯川に来て嬉しいという声もいただきました。

それから約4ヶ月、夏を感じられる季節になつて行動範囲も広がってくると、まだまだ知らない函館があることに気づかされます。うちのスタッフはみんな酒飲みではないので、いつも一人で飲みに行きますが、そのお陰もあってか、行く先々で函館の人と話す機会がたくさんあります。たまに函館の訛りで何を言っているのかわからないことも多いです。

私が函館のことを聞くと皆さんが口を揃えて言うのは、函館の人はシャ

イで、閉鎖的だということ。

飲み歩くと思つていことがもう一つ、同年代の人をあまり見かけないということ。たまに出会って話を聞くと、友達がいらない、遊ぶ場所がないと言います。私にとって遊ぶ場所がないのは大問題です。

そして、私が感じたのは、函館の人は期待していない、今の状況に満足している、ということ。函館の人は求めるものがあるのに、それを実行する人がいない、先頭を切れる人がいない、といった声もよく耳にします。面白いのは皆さんが同じ印象を持っているということ。もちろん誰もがそうだとは一概には言えないにしても、とても不思議です。

そんな函館で私は何ができるか、最近よく考えます。札幌にいた時は、デザイナー、ブランドコンサルを仕事にしている函館でも続けたいという思いがありました。それと同時に、函館をもっと楽しい街にしたい、そう思うようにもなりました。

理由は私がまだ函館を楽しめていないから、そして同じような思いを持つ人がまだまだたくさんいると感じるからです。

札幌と比べて見てしまうことがあります。そしていつも、まだやれることがある、もっと楽しい街になれる、そう思っています。

いくら函館移住に抵抗があったとはいえ、来たからには地元のために、

もちろん自分のためになることに全力で取り組む、自分が楽しくなきゃ誰も楽しませることはできないという思いがあります。

函館は開港都市という特殊性と、歴史や文化的なリソースは豊富で新しいことにチャレンジするには良い環境であるように感じます。だから私個人として、イベントやメディア事業を軸に、函館というブランド価値を上げていけたらと勝手に思っています。

山口 颯朗



Tune Hakodate Hostel & MusicBar 1Fのカフェバー

Tune Hakodate Hostel & MusicBar

1Fのカフェバーでは、クラフトビール やカクテル、お食事も用意。ライブやワークショップなども随時開催、facebookページよりイベント情報をご確認いただけます。

営業時間
18:00-23:00 (22:30L.O.)
月曜定休

函館市湯川町1丁目30-1
駐車場4台有

<http://tune-hakodate.com/>
instagram:@tunehakodatebal